

共に生きる

# WITH LIFE

2024  
ウィズライフ  
第59号

テーマ

支え合い仕事に喜びを



# 私たちの「願い」

私たちは、公益に資する法人として、

- 「高齢者も障がいのある人も社会で共に暮らし、共に生きることがノーマルである」というノーマライゼーションの理念に基づき、
- 高齢者や障がい者が安全で安心して快適に暮らせる住生活の整備・向上を通して、
- すべての人が生きがいをもって生活できる社会づくりと、社会福祉の増進に寄与することを目的に取り組んでおります。

私たちのこの「願い」のため尚一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団  
理事長 土屋 昌三

## WITH LIFE 第59号 目次

### 特集 支え合い仕事に喜びを

- 4 ●特集(1) 対談  
障がいがあっても自分らしい生活を送るために  
広い視野で考え、目標を掲げ、工夫しよう  
木明翔太郎行政書士事務所 代表 木明翔太郎さん  
会社員 長谷川 宙さん
- 10 ●特集(2) 事例  
誰もが地域で当たり前暮らし  
働くことができる環境づくりに励む  
NPO法人 札幌障害者活動支援センターライフ 理事長  
佐々木泰彦さん
- 14 介護・自立サポートアイテム PCの文字を点字に変換「点字ディスプレイ」
- 16 小中学生による「安全・快適アイデア」コンテスト
- 18 トピックス グループホームで暮らし、趣味のヒップホップダンスで自信を培う
- 19 「ノーマライゼーション住宅財団」活動紹介

2024年4月1日発行

発行人／土屋昌三

発行所／公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団◎

〒060-0042 札幌市中央区大通西16丁目2-3ループル16 9F

TEL 011-613-7551 FAX 011-612-8431

URL <http://www.normalize.or.jp/>

【制作スタッフ】 ●編集協力／株式会社日本商工振興会  
●編集総括／奥野 彰 ●レイアウト／高部友恵 ●表紙イラスト／佐藤正人

【印刷】株式会社須田製版





わらしべ会「札幌わらしべ園苗穂第二事業所」は、子ども食堂や図書に親しむ場として地域の人々も訪れる開放型施設。2階のミーティング・読書空間で地域公益活動について語る川本さん

障がいのある人たちと一緒に

生活の場と活動の場を作っていくことを使命とし、

札幌市・伊達市・浦河町で

障害福祉サービス事業等に取り組む「わらしべ会」。

理事長の川本明良さんは、若き日、

「わらしべ会」創設者(※)の支援を受けハンガリーに渡り、6年間、コンダクティブ教育の修得に努めた。

「当初はハンガリー語が全くわかりませんでした。

ストレスがもともとで、体に変調をきたしたこともありました。

休学の間は地元(ハンガリー)の皆さんに支えていただき

語学力もつき、学習に反映させることができました」

コンダクティブ教育の大きな特徴は、

障がいのある人が

支援職員と共にグループで訓練や学習を行うこと。

そして、人としての自信を取り戻し

地域の一員として主体的な暮らしを紡ぐこと。

川本さんらは、人が集まり、心を通わせ、

つながることで暮らしが広がることを

数々の取り組みで実証し続けている。

文／大藤紀美枝  
写真／伊藤留美子



障がい特性に応じた運動をグループで行う通所者たち(札幌わらしべ園苗穂第二事業所)

社会福祉法人わらしべ会(札幌市東区苗穂町3丁目2-35 TEL.011-776-7981)

※1978年、大阪の医師、村井正直・陽子夫妻が、障害のある人を支援するために創設。大阪と北海道、二つの「わらしべ会」が、その理念を継承し実践している。

●特集(1) 対談

# 障がいがあっても自分らしい生活を送るために 広い視野で考え、目標を掲げ、工夫しよう

車いすの行政書士としてその名を知られ、障がいのある人の福祉をはじめ、幅広い分野で活躍する木明翔太郎さん29歳。高等養護学校を卒業と同時に東京本社の企業に就職し、札幌の自宅でリモートワークを行う長谷川宙さん19歳。街に出、演壇に登り、ノーマライゼーションの旗を振るお二人に、それぞれの歩みと障がいがあっても生き生きと働ける環境づくりについて語っていただきました。

構成／大藤紀美枝 写真／伊藤留美子

## 障がいについて 主体的に考え対応

木明翔太郎行政書士事務所代表  
きめいしょうたろう  
木明翔太郎さん

会社員  
はせがわ  
長谷川宙さん

——お二人は公私にわたってご活躍ですが、ご自身のご病気とそれに伴う障がいについて教えてくださいいただけますか。

木明 僕は2歳の頃からよく転ぶようになり、脊髄性筋萎縮症(※1)と診断されました。

徐々に歩行に困難をきたすようになり、中学生の頃、階段は友達におぶってもらって

ました。高校はエレベーターのある学校を選択して車いすを使い、腕の筋力低下により21歳頃から電動車いすを使っています。

今は何をするにも人の力が必要なもので、ほぼ24時間ヘルパーさんの力を借り、中央区で一人暮らしをしています。

長谷川 私は骨形成不全症(※2)で、幼児期から車いすを使っています。小学校入学の際、地域の小学校に「歩道橋を渡

る」という車いす使用では無理な規則を突き付けられ、特別支援学校へ入学しました。母校の北海道岩見沢高等養護学校は、道内唯一の高等部単置の肢体不自由教育校で、寄宿舎生活でした。

就職した今は、実家の自室でリモートワークをしています。高3の冬に手動運転装置が付いた車で教習を行い運転免許証を取得し、以来、ほぼマイカーで外出しています。



長谷川 宙 (はせがわ・そら)

2004年生まれ。骨形成不全症のため、幼児期より入院生活を経験。小学校は特別支援学校に入学。引っ越しを機に地域の学校に転校。2020年北海道岩見沢高等養護学校商業科に入学。情報処理や簿記等、数々の検定試験に合格し、日本情報処理検定協会会長賞を受賞。  
2023年同校を卒業し、ITサービス専門企業のグループ会社(本社、東京)に就職。在宅勤務で事務を担当。中学生の頃から講演会等で障がい当事者の声を発信している。札幌市在住。



木明 翔太郎 (きめい・しょうたろう)

1994年生まれ。2歳のときに進行性の脊髄性筋萎縮症を発症。小中高校と普通学級で学び、高校生のときに車いすユーザーに。2013年北海道大学法学部入学。大学3年で行政書士試験合格を機に、社会保険労務士事務所、法律系コンサルティング会社に勤務。  
2017年大学を卒業し、木明翔太郎行政書士事務所を開業。自社ホームページ、SNS、講演会等で、仕事と病気への思い、ノーマライゼーションの推進等について発信している。札幌市在住。

- ※1 脊髄性筋萎縮症…筋力が低下して、体が思うように動かせなくなっていく進行性の難病。
- ※2 骨形成不全症…骨がもろく弱いため、骨折しやすく、骨の変形をきたす難病。
- ※3 障害福祉サービス…障がいの程度や社会活動・介護者・住居等の状況を踏まえ、個別に支給決定され、介護給付と訓練等給付がある。
- ※4 重度訪問介護…重度の肢体不自由または重度の知的障がいもしくは精神障がいにより、常時介護を必要とする人に対し、自宅での入浴・排せつ・食事等の介護、外出時の移動支援、入院時の支援等を総合的に行う。

木明 従来、障害福祉サービス(※3)の重度訪問介護(※4)は、就労では利用できなかったのですが、札幌市重度障がい者等就労支援事業により、2022年4月から就労でも利用できるようになりました。それにより、日常生活の支援

木明 やつぱり家事ですね。ごみ出しに関して言えば、手動車いすだったときは、ごみステーションまで自分の膝の上に乗せて運んでいましたが、生ごみがすごく臭いんですよ(苦笑)。

木明さんは、いつから一人暮らしを始めたのですか。  
木明 2年前です。それまでは父と暮らしていましたが、父が仕事に出ている間、ほとんど一人の時間でした。朝起きて2時間ぐらい一人で、昼ごはんの間はヘルパーさんが来てサポートしてくれますが、夕方5〜6時まで、また一人。その間はトイレが使えないし、家からも出られない。仕事をする上で、かなり厳しかったです。

長谷川 今は、どのようにしてお仕事をなさっているのですか。  
長谷川 一人暮らしをして、一番大変なことを教えてください。  
木明 やつぱり家事ですね。ごみ出しに関して言えば、手動車いすだったときは、ごみステーションまで自分の膝の上に乗せて運んでいましたが、生ごみがすごく臭いんですよ(苦笑)。



笑)。一人暮らしをするって、そういうことの連続なんです。

また、僕の場合、手が胸ぐらいまでしか上がらないから、エレベーターのボタンで高い階は押せません。以前は小さい突っ張り棒をいつも持っていて、それを使って押していました。

長谷川 いろいろ工夫なさっているんですね。

木明 妥協しなければならぬこともあるけれど、「妥協したくないスタンス」は崩さないようにしています。例えば、食べ物にはこだわりがあるので、ヘルパーさんに作ってもらうにしても自分が好きな物を食べたい。諦めることができるだけじゃないんです。

### 自分に合った手法で 学習し成果を上げる

——長谷川さんは2023年に就職されましたが、就職活動はどのようになさったのですか。

長谷川 私は力作業ができないので、子どものときから得意だったパソコンのスキルを生かした仕事に就こうと考え、情報処理に関する検定試験に特に力を入れていました。

高3のとき、ハローワークの担当者が来校し、障がいに関して理解がある会社として紹介されたのが弊社です。「障がい者雇用を促進し、共に働く喜びの場を創造する」を目標とする会社で、私が希望するリモートワークが実現しました。

木明 長谷川さんは、もともと就職希望だったのですか。

長谷川 はい。大学に進学すると課題などもあり、勉強以外のことに集中しにくいのはと思ったんです。私はスポーツをするのも観戦するのも大好きで、スポーツをはじめ、さまざまなことを行っていくには、仕事をしながらの方がよいと判断しました。

木明 僕の高校時代の話をすると、1年のときは授業中寝てばかりいたから、成績は全学科をとおして最下位。友達もなかなかできませんでした。先生も僕のことを見下していましたね。そうした中で、「模試で1位になれば人気者になれる」と自分に言い聞かせ、北大法学部合格を目指しました。

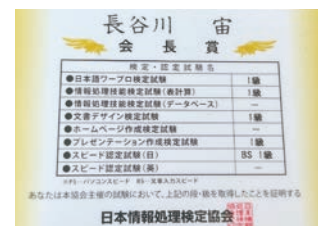
長谷川 どんな風に勉強したのですか。

木明 お金がなかったから、さまざまな勉強法の本を書店で立ち読みして、勉強法の勉

強から始めました。僕は腕に障がいがあるので、英単語を何回も書いて覚えるようなことはできません。書かないで、どうやって覚えるか。英単語は目で見て、耳で聴いて、口に出して発音し、感覚だけで覚えました。数学の証明問題は考え方だけ書いて計算はせず、論理づけができればマルという自分の勉強法を徹底しました。もともと負けず嫌いでしたから、夜遅くまで勉強しました。



日本情報処理検定協会会長賞は1級5種目以上取得した人に授与され、証明証が発行される。長谷川さんは、日本語ワープロ検定試験において初段を取得。そのスキルを生かしてリモートワークに励む。



長谷川 宙さん(右)

写真提供：長谷川 宙さん(8頁右下)



長谷川 私も負けず嫌いなどころはありますね。パソコンに関して言えば、2、3歳の頃、伯父から外とはつなげない状態のパソコンをもらって、ひたすらキーボードをたたき、入力していたそうです。小学校入学前にローマ字入力ができるようになっていました。

木明 僕の小中学時代は、パソコンを持っていない人そのものが少なかったです。10歳離れていると、随分、違うものですね。

長谷川 木明さんがおっしゃったように、私も一番自分に合った方法を意識して勉強をしていましたね。小学生のときからパソコン操作に限らず、教科書にのっとたやり方が全てにおいて正しいとは言えないと感じていて、それはあくまでも平均的な正しさで、全てに当てはまるものではないと思うんです。

—— 木明さんはファッションにも個性を発揮されていますね。長谷川さんはトラッドな印象です。

木明 学生時代、車いすに乗って街に出ると、「車いすでかわいそう」という感じで、チラッと見られるのが嫌だったんです。「車いすの人ではな

く、木明翔太郎を見ろよ！」というところで、結構、過激なファッションに傾倒しました。今日のコーディネートも自分テイスト。いつもどおりです。

長谷川 私は、講演や取材を受けるときは、ネクタイを締めスーツを着ますが、在宅勤務ということもあって、普段はラフで動きやすいものを着ています。

### 自分中心に考え 快適に働ける環境に

—— 就労の一日のタイムスケジュールを教えてください。

長谷川 弊社は社員それぞれ、の就労時間が決まっています。私の場合、9時から昼休み1時間をはさんで16時までの6時間勤務。仕事中はパソコンの前に張り付いています。障がいによって就労時間が選べるシステムなので、食事の介助などが必要な人は、昼の休憩時間を1時間延ばすといったことが可能です。

木明 僕は先ほど言った介護サービスを利用し、休みながら仕事をしています。基本的に就労時間は定めています。自由に仕事をし、休みたいと

きに休んでいます。お客さまとの約束や依頼された事実の期日は厳守します。

—— お仕事の内容は。

長谷川 グループ会社に向けた業務が主で、例えば、経理関係の経費の資料や、各会社の健康診断に関するお金のやり取りの資料を作成しています。お金のやり取りはオンライン上で行うので、オンラインでスムーズにできるよう、よく考えて作成しています。



#### 木明翔太郎行政書士事務所

札幌市中央区南2条西12丁目323-8

Royal Hyatt403

TEL:080-5834-7595

URL:<https://kimei-gyose.com/>

開業支援、経営コンサルティング、遺言・相続などの各種手続きをサポート。障害福祉サービスに関する相談に特に力を注いでいる。

写真提供：木明翔太郎さん(9頁左上も)



障がいのある人の教育、就職、就労について熱く語る木明翔太郎さん(左)と

# 私の場合、車いすユーザーの経験談が一番参考になります。 進んで当事者に会い、 進路情報を得ることをおすすめします。(長谷川)

**木明** 僕は行政書士の中では珍しく、経営のコンサルティングもやっているのですが、「どう売上を伸ばすか」「制度が変わってどう対応していけばよいか」といった相談を受けることが多いです。

大学2年のときに、自分が利用していたヘルパーステーション(障害福祉サービス事業所)でアルバイトをして許認可や助成金業務に関わって以来、福祉事業の仕組みを勉強してきていますし、自分自身が車いすユーザーなのでわかっている部分もあり、それらを業務にうまく生かしています。

——木明さんが就職せずに起業したいきさは。

**木明** 法学部に入学当初は弁護士になるつもりでしたが、弁護士への道のりは長いし、病気が進行したこともあり、

方向を変えることにしたんです。アルバイトがきっかけで、3年生のときに行政書士試験を受けたら合格したので、そのことをSNSで発信したら、社会保険労務士事務所の所長が声をかけてくれ、アルバイトをすることになりました。

卒業したらその事務所に務める予定でしたが、体調を崩して断念せざるを得ませんでした。それで、自分で起業するしかないと思い、卒業してすぐに行政書士事務所を開業しました。

## 事例を見聞きし 諦めるのをやめよう

——何らかの障がいがある人が進路を決めるに当たっての留意点についてお話しください。

**木明** 長谷川さんは考えがあって高卒で就職されたわけ

だけれど、進学する生徒は少ないんですか。

**長谷川** 同級生の進路に関して就職と進学を比べると、就職した人の方が多いです。私のように一般企業に就職した人もいれば、就労継続支援A型事業所、あるいはB型事業所に通う人もいます。

**木明** その現状をどう思いますか。

**長谷川** 就職に関して言えば、障がいがある原因でA型あるいはB型事業所でなければ働けないと自分で判断しているケースが結構あると思います。事業所を選択した人の中には、工夫さえすれば一般企業で働けるのではと思う人もいました。

**木明** A型事業所で働く人は、雇用契約で最低賃金が保障されているから、まだいいです。B型事業所の場合、時給200円程度。賃金ではなく

工賃と言い、北海道の場合、月平均工賃が2万円ぐらい。そうなる障害年金、生活保護と併用して生活することになり、一般人と同じレベルの生活は難しい。

僕は、特別支援学校などで学ぶ生徒にも、卒業後の進路として大学に進学して専門性を高めて就職するという道筋を増やしていく必要があると思います。

**長谷川** それは私も感じています。ただ、教育制度だけの問題じゃなくて、生徒自身が一般企業への就職、あるいは進学を諦めてしまうケースが多いように思います。例えば、



休日はスポーツを楽しむ長谷川さん。競技用の車いすを使用するため、それを積み込む車での移動が必須

「自分は歩けない。イコール何もできない」と思ってしまう背景には、「障がいがあるから思い込みがあって、そうした環境が影響して夢がつぶれてしまうのは残念です。」

**木明** そうならないためには、「諦めない教育」が必要です。



なぜ、努力しなければならぬのか、その先に何があるのか想像して取り組むといいです。僕が高校時代、がむしゃらに勉強したのは、「女の子にもてたい」というのが本音（苦笑）。自身による動機づけが頑張るエネルギーを生みます。

それから、事例を知ることでも大事です。長谷川さんの母校では、就職あるいは進学した卒業生の話をじかに聴く機会がありますか。

例えば、自分で移乗でき、トイレも使えるような人たちは、障がいのレベルが違うから、知り合っても刺激や影響を受けることがほとんどありません。障がいがあるというだけですり合わせるのは問題で、教育や制度改革において、そこをどうしていくかが今後の課題だと思います。

障がいで、重度の障がいであれば仕事でも介助が必要」というように、どんどん細分化してアピールしていくとよいと思います。

木明 どう伝えれば手伝わってもらえるのか。「ちょっと手伝わってもらえますか」って感じよく言えば、ほとんどの人が手伝わってくれますよ。そうしたことの積み重ねで、世の中、随分、変わると思います。飲食店を経営しているのなら、店内のテーブルの配置を見直してみるといったように、一人一人が自分の立ち位置で、何ができるか考えることが、ノーマライゼーション浸透につながるっていくのではないのでしょうか。

長谷川 私もそう思います。

木明 どう伝えれば手伝わってもらえるのか。「ちょっと手伝わってもらえますか」って感じよく言えば、ほとんどの人が手伝わってくれますよ。そうしたことの積み重ねで、世の中、随分、変わると思います。飲食店を経営しているのなら、店内のテーブルの配置を見直してみるといったように、一人一人が自分の立ち位置で、何ができるか考えることが、ノーマライゼーション浸透につながるっていくのではないのでしょうか。



障害福祉サービスの利用者でもある自身の経験を盛り込んでプレゼンテーションをする木明さん

や進学の経験談を聴くことができるので、すごく励みになります。ただ、私のように車いすユーザーの場合、やはり車いすユーザーの先輩の話を聴きたいです。共通する障がいのある人の生の声が一番参考になりますから。

木明 そうですよ。僕に関して言えば、自分で移乗でき、トイレも使えるような人たちは、障がいのレベルが違うから、知り合っても刺激や影響を受けることがほとんどありません。障がいがあるというだけですり合わせるのは問題で、教育や制度改革において、そこをどうしていくかが今後の課題だと思います。

透のポイント。木明 障がいのある人が社会に出ていくためには何が必要か、みんなに知ってもらいたいです。そのためには、大義名分を説くのではなく、「街に出て食事をすることはお金が必要で、お金を稼ぐには仕事が必要。仕事に就くにはそのための教育

木明 どう伝えれば手伝わってもらえるのか。「ちょっと手伝わってもらえますか」って感じよく言えば、ほとんどの人が手伝わってくれますよ。そうしたことの積み重ねで、世の中、随分、変わると思います。飲食店を経営しているのなら、店内のテーブルの配置を見直してみるといったように、一人一人が自分の立ち位置で、何ができるか考えることが、ノーマライゼーション浸透につながるっていくのではないのでしょうか。

障がいのある人が社会に出ていくために、何が必要か、みんなが知ることで、みんなが暮らしやすくなります。（木明）



2024年1月13日、当財団応接コーナーにて

●特集(2) 事例

# 誰もが地域で当たり前前に暮らし働くことができる環境づくりに励む

障がいのある・なしを超えて、「働きたい」と願う人の気持ちをつなぐ活動を続けるNPO法人ライフ。2024年1月、本部を訪ね、これまでのあゆみと事業の現況、そして障がいのある人が日常生活や就労で抱える悩みを解決する手立てを伺いました。

障がいのある人も  
ない人も共に働く

1988年、一人の脳性まひの青年が札幌市西区にある印刷会社に加わり、働く場に障がいのある人が一人増え、二人増えして、翌年、印刷会社の中に「障害者ワープロフロアー」が開設されました。それがNPO法人札幌障害者活動支援センターライフ（以下、ライフ）の始まりです。

2020年からライフ理事長を務める佐々木泰彦さん(65)がライフに加わったのは2003年のこと。参加のいきさつを次のように語ります。

「私自身、障がい当事者で、1998年に40歳で札幌市内のリハビリセンターを退所し、一人暮らしをしながら障がい者を支援する作業所の運営を手伝っていました。2003年、障がい者に対する国の施策として支援費制度が導入されたのを機に、居宅介護支援事業所を立ち上げようと決意し、NPO法人格を持つライフの中に立ち上げさせてもら



NPO法人 札幌障害者活動支援センターライフ

理事長 佐々木 泰彦さん

## NPO法人 札幌障害者活動支援センターライフ

1989年札幌市の小規模作業所として障害者ワープロフロアーを開設。2000年札幌障害者活動支援センターライフとしてNPO法人に。誰もが地域で当たり前前に暮らし、働くことができる環境をつくり、ノーマライゼーション社会の創出に向けた取り組みを推進。多様な事業を展開し、現在、障がいのある人・ない人約130人が共に働いている。

札幌市西区山の手4条1丁目1-1 No.3マックスビル4F  
TEL: 011-633-6666 URL: <http://npolife.net/>

文・写真／大藤紀美枝



えないかと相談したら、一つ返事でOKしてくれたんです」

そしてすぐさま、ライフの指定居宅介護支援事業所「ヘルパーステーション繭結」を開設（2003年）。以来、障がい者・高齢者のよき理解者として、ヘルパー派遣業務・在宅介護支援を行い、各種制度に關しての相談も受けています。

開設時から障がいのある人・ない人が共に働くことを当たり前として、多様な事業に取り組んでいるのもライフの大きな特色です。

ライフが本部を置くNo.3マックスビルは、西区役所に近い山の手4条1丁目であり、地下鉄東西線琴似駅もゆつくり歩いて10分ほどの距離。現在、同ビルにはライフ本部をはじめ、「ヘルパーステーション繭結」「就労継続支援A型共働事業所きばりや」「就労継続支援B型ひだまり」「生活介護ころや」が入っています。

「きばりや」ではCafe TSUDOI(つどい)を運営、「ひだまり」では軽作業や清掃など多種多様な仕事を、「ころや」では軽作業と共に米の販売も行っています。

また、札幌市中央区にある市民活動プラザ星園では、「共

働事業所もじや」「アウトソーシングセンター元気ジョブ」「相談室らいふ」が活発に事業展開し、札幌市西区のリサイクルプラザ発寒工房、同厚別区の札幌市リユースプラザでもライフの仲間が活躍しています。

### その人に合う仕事で収入を得る道を作る

ライフはなぜ、多様な事業に取り組むのでしょうか。佐々木理事はその理由を次のように語ります。

「私たちは、障がいのある人が働ける場所ではなく、こういう障がいがあるこの人が働ける場所を作りたいというのが基本にあつて、その人ができる可能性のある仕事を考えて事業を立ち上げてきました」さらにライフならではの取り組みに注目すると、

事業所名に見られる「共働事業所」は、障がいのある人なしに関わらず、支え合いながら働くところという意味が込められているそう。「共働事業所もじや」は、札幌市独自の事業である札幌市障がい者協働事業所制度を活用して障がいのある人の雇用促進に取

## NPO法人ライフの事業(受託含む)

### 印刷

共働事業所もじや(札幌市障がい者協働事業所)

### 相談

相談室らいふ(相談支援)

### 飲食

共働事業所きばりや(就労継続支援A型)

### マッチング

アウトソーシングセンター元気ジョブ(札幌市より受託)

### 軽作業

ひだまり(就労継続支援B型)  
ころや(生活介護)

### 環境

札幌市リユースプラザ(札幌市より受託)  
札幌市リサイクルプラザ発寒工房(札幌市より受託)

### 介護

ヘルパーステーション繭結(指定居宅介護支援)



札幌市下水道科学館フェスタの屋台業務をライフのみんなで担当したときの一コマ



ナイスハートフェアinアリオでは、「きばりや」が運営するCafe TSUDOI特製の焼き菓子を販売



養護学校の生徒にも接客体験をと、遠隔操作ロボットを使ってお客さま役のライフ職員がやりとり

写真提供：NPO法人ライフ

# 健康に見える人も何らかの大変さを抱えています。 さまざまな人と関わり、支え合うことが必要です。 (佐々木)

り組み、主に「文字」に関する印刷・制作の仕事をしています。

札幌市から受託する「アウトソーシングセンター元気ジョブ」は2009年から受託している事業で、障がいのある人の賃金（工賃）アップによる自立促進を念頭に、民間企業・官公庁などに営業して発注してもらった業務を、札幌市内の障がいのある人たちが働く事業所に振り分けるマッチング事業を行っています。

また、2016年に開設した「相談室らいふ」では、相談支援員が、障がいのある人や生活に困窮している人および、その家族から、日常生活や福祉サービスの利用等に関する相談を受け付けています。必要な情報提供やサービスの利用援助に加え、関係機関との調整等を総合的に行っているため、利用する人にとって心強い限りです。

## よりよい明日を目指し 要望を伝え提言も

ライフ設立の経緯や今日までのあゆみを見ると、新事業所開設、開店のみならず、再編、移転、閉設もあり、常によりよい組織を模索してきたことがわかります。

また、1992年、「国連・障害者の10年」最終年記念イベントに参加し、それが2002年DPI世界会議札幌大会開催につながるなど、ノーマライゼーション社会の創出に向けた制度・政策の提言や、その実現に向けた活動も筋金入りです。

「介護保険制度に関して言えば、高齢者を主な対象とし、障がい者はその一部という考え方は、2000年施行当時から、さほど変わっていません。当初、『ヘルパーとして障がい者の在宅介護に入ったけれど、何をどうしてよいのかわ

からなかった』という話を聞きました。ならば、ヘルパーさんたちに障がいについて理解を深めてもらい、障がい者が在宅介護に何を求めているか知ってもらおうと、研修会で講師を務めるなど、積極的に発信してきました。

国は、『高齢になっても、障がいがあっても地域で生活を』という方針だけれど、それを行えるような土壌にありません。ギャップが大きいんです」と佐々木理事長は厳しい状況を訴えます。

では、どうすればよいのでしょうか。

「障がいがあっても地域で暮らしていくには、屋外の段差もバリアになります。特に冬の道の除雪や歩道の段差解消など、さまざまな場所に配慮が必要です。介助においては、ヘルパーさんの人員確保が第一です。そうすれば、ある程度の工夫で生活できると思



上/リクライニング機能はボタン操作  
右/前輪駆動のタイヤを動かす佐々木理事長

「雪道には、18年間国産の四輪駆動の電動車いすを使用していました。その馬力を継続して使用したかったのですが、生産中止になりました。国も電動車いすユーザーの実情を把握し、普及にもっと力を注いでほしいです。現在、私が使用している電動車いすはスウェーデン製の前輪駆動方式で、今までにないリクライニング機能が付いていて、いすを傾けて腰やお尻の負担を和らげることができ、疲れたときはフラットにして体を横にすることができます」と佐々木理事長。

ます。

障がい当事者が周りに働きかけることも大事です。仕事を持つていけば、雪が積もっていても出かけなければなりません。私たちは、歩道の除雪や段差ができたところを削ってもらえないかと、随時、除

雪センターに電話してお願いしています」と佐々木理事長。

佐々木理事長は、関節リウマチ（※）のため電動車いすを使用し、厚別区の自宅マンションから西区のライフ本部まで、途中、地下鉄を利用し自力で通勤。前輪駆動の高性能電動



車いす（スウェーデン製）を使用していますが、それでも車輪が雪に埋まってしまいうことがあろうです。

「今日も歩道で車輪が雪に埋まって空回りしたんです。そうしたら、車を運転していた人が、わざわざ車を止めて降りてきて、電動車いすを後ろから押してくれたんです。とてもうれしかったです。日々、通り

すがりの人にサポートしていただいています」と話す佐々木理事長は、地下鉄乗車時のエピソードも教えてくれました。「朝の出勤時、地下鉄に乗ろうとしたら、簡易スロープを設置して乗車をサポートしてくれる駅員さんの判断で、2本待たされたんです。『どうしてですか』と尋ねると、『混み合っていたので、空いた車両を待っていました』と言われ、『勤務しているの、遅刻は困ります。来た地下鉄にすぐ乗りたいです』と言うと、以後、見送ることなく、乗せてくれるようになりました」

このエピソードにもあるよ

※関節リウマチ…免疫の異常により、関節のはれや痛みが起る病気。関節炎が進行すると骨が変形し、機能低下、障がいが生じる。

うに、自分から言わなければ、周りは気づかない・わからないことが多々あります。障がいのある・なしを問わず、「こうしたい」と思うことを周囲に伝える勇氣を持ちたいものです。

## 課題解決は誰にとっても自分事

ライフの今後の方針を佐々木理事長に伺うと。

「全ての人がなくてはならない存在です。私たちライフは、設立理念の下、障がい者、高齢者、病気を抱えている人、シングルマザー、何らかの理由で生きづらい状況にある人：さまざまな人と関わりを持って、サポートしたり、話しをしたり、相談に乗ったりしていますが、まだまだノーマライゼーション社会の実現には至っていません。

実現するには福祉制度の充実だけでなく、生活や就労に関する課題を他人事ではなく、自分事として捉え、地域全体で支え合うことが必要です。まず、日常的な交流を心がけたいものです」とのこと。

取材に同席してくださった専務理事の坂本倫子さん（46）

は、2012年に札幌市リサイクルプラザ発寒工房にパート事務員として勤務し、本部署務局総務を経て正社員となり、Cafe T SUDO Iのメニューや焼き菓子づくりで職員や利用者と共に奮闘しています。

「私は30歳になってすぐ、生きるか死ぬかの大病を患いました。回復と同時に一度死を覚悟した私が生かされた意味はなんだろう、私にこれから何ができるのだろうかと考えようになりまし。さまざまな人と向き合う姿勢や視点、人生観も変わった矢先に、ライフと出会いました。どんな状況にあっても、周囲の人たちと支え合いながら生きていくことの中に、学びはたくさんあります」としみじみ語ります。

NPO法人  
札幌障害者活動支援センターライフ  
専務理事  
坂本倫子さん



写真提供：NPO法人ライフ

## 誰かの役に立ちたい！ 40歳からのスタート

最後に佐々木理事長個人のあゆみを紹介します。

「私は、小学校に上がる直前に関節リウマチと診断されました。治療薬はなく、痛み止めの薬を飲んで、湿布を貼るだけ。最も痛みが激しかったときは、かたわらを誰かが歩く振動で全身に痛みが走りました。そんなわけで、入退院を繰り返して、小学校も中学校も1年のうち半分も登校できませんでした。義務教育もろくに受けておらず、重度の障がいがあり、どこかで働くこともできない…。抑えても抑えても湧き上がる苛立ちをぶつける相手は、両親しかいません。このままではいけないと思い、28歳で家を出て、リハビリセンターに入所しました。

2年後に別のリハビリセンターに移ったものの、病気の進行は止められず、『自分は何のために生まれてきたんだらう』と考え込むこともありましたが、長い時間を経て、『誰かの役に立ちたい』と思うようになり、40歳にして退所。電動車いすを使用し、札幌市中央区で一人暮らしを始めました。

社会に出たことで、重度の脳性まひがありながら、障がい者のために活動している人に出会い、その人から多くを学び、やがてライフにお願いして、3人で居宅介護支援事業所を立ち上げることができました。

しかし、それからが大変で、自分が障がい当事者だからわかる制度もありましたが、事業に関しては何となくわかりません。調べ尽くしてやっと理解できたとと思ったら、制度が変わって、また勉強という具合です。身体共にハードな毎日でしたが、頑張り通せたのは、介護事業を始める1年前に結婚し、介護事業を始めるその年に長女が生まれたので、失敗できない、何が何でも軌道に乗せると覚悟を決めていたからです。

何もない人間が40歳で一人暮らしをし、家庭と仕事を同時期に持ち、25年経って今の生活があります。20年遅れのスタートでしたが、目的と責任を持つことで、短期間で成果を実感することができました。10年ほど前から料理が趣味になり、妻に材料を切ってもらって、私が調理をしています。麻婆豆腐や中華丼を中学生の長男が、おいしそうに食べてくれるので作りががあります」



# 「点字ディスプレイ」

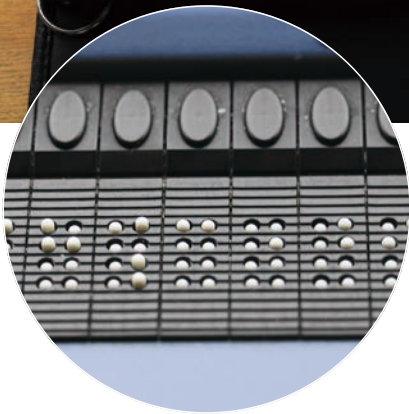
PCやスマホの文字を点字に変換  
点字でメモや書き込みもできる

視覚に障がいのある人たちが文字情報を得るために活用する点字。今回紹介するのは、点字にまつわる不便を大きく軽減し、ユーザーが文字情報をより広く収集・活用できる可能性を秘めているハイテク機器「点字ディスプレイ」です。ユーザーとメーカー、それぞれにお話をうかがいました。

レポート：  
西村裕広



取材したユーザー・吉田さんはこれまで5機種を使用。最新モデルは多機能になっていますが、吉田さんはよりシンプルな少し古い機種を愛用されています。読み込んだデータに応じて「点字セル」のピンが上下し、点字を表示します。



昨年参加されたイベントで朗読を披露した吉田さん。その際にも原稿は点字ディスプレイで読みました。紙の点字原稿だと量は膨大になります。



吉田さんはより手軽に持ち運びできるハンディタイプも愛用。点字セルの上にあるボタンで点字を編集・入力できます。

## 点字をより身近に 活用できるツール

視覚に障がいのある人が文字情報を得るには点字、補助者やパソコン、スマートフォンによる文字の音声化、弱視の人には文字の拡大器などもあります。今回取材させていただいた吉田重子さんのように全盲の障がいがある場合は、点字と文字の音声化だけとさらに限定されます。

点字は専用の厚い用紙に突起を打って作り込まれ、漢字は無いので一般的な本などを点字化すると膨大な量になります。また紙の点字の資料にはメモができません。吉田さんは学生時代、周囲の障がいの無い学生が手元の資料にメモや書き込みしていることを





#### Next Touch 40

40マス(文字)の点字が表示され、スタイリッシュなデザイン、最小限のボタンでシンプルな操作性が特徴。  
238,000円(税別)



#### ブレイルメモスマートAir32

32マス(文字)の広い点字表示、追加ソフトで機能を拡張すればwordやpdfのテキストをダイレクトに点字変換可能、起動までの時間が短いなどの利点があります。  
430,000円(税別)



#### ブレイルメモスマートAir16

片手で持てる点字表示16マス(文字)のコンパクトサイズながら、Air32とほぼ同じ機能を搭載しています。  
340,000円(税別)

写真提供・取材協力

#### ケージーエス株式会社

埼玉県比企郡小川町小川1004

TEL:0493-72-7311

URL:<https://www.kgs-jpn.co.jp>

通信機器部品のメーカーとして1953年創業。同社の点字セルはゆうちょ銀行のATMほか国内外の施設で採用され、点字ディスプレイは1985年から販売開始。

知り、点字でも同じことができればと強く感じたそうです。点字を利用する上でのこうした不便を解消するのが「点字ディスプレイ」です。スマホやパソコンにおいてテキストデータから変換されたデジタル点字データを点字ディスプレイに接続して読み込むと、本体に備わっている点字セルのピンが上下して読み込んだデータを点字として表示するのです。内蔵メモリやUSBを使えば、保存したデータを点字として読むこともできます。

そして点字の編集機能もあります。もしメモを取りたい場合、点字ディスプレイなら点字で簡単に入力できます。

現在、国内の点字ディスプレイのメーカーは1社、そのほか海外製品をローカライズして販売している企業が1社あります。海外製品にはネットワーク機能を内蔵し、webサイトなどを読み込めるモデルもあります。唯一の国内メーカー「ケージーエス(株)」の最新モデルは点字変換していないテキストデータをダイレクトに点字化できる拡張機能のほか、様々な機能が付加されています。

第28回  
小中学生による  
「安全・快適アイデア」  
コンテスト  
入賞者発表

当財団では、毎年、小中学生を対象に「安全・快適アイデア」コンテストを実施しています。今回は道内18校(小学校9校、中学校9校)および4個人から727作品の応募がありました。審査結果をお知らせいたします。(記載の学校・学年は応募時現在)

審査委員長 講評

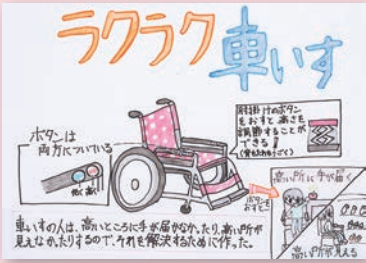
一般社団法人 北海道デザイン協議会  
名誉会長 大阪 克彦

小中学生のアイデアは多様で、毎回、感心させられます。今回は、前回の約1.5倍の応募がありました。1次審査は私一人で全応募作品の中から約3分の1を選考。2次審査は私を含め有識者7人で行いました。

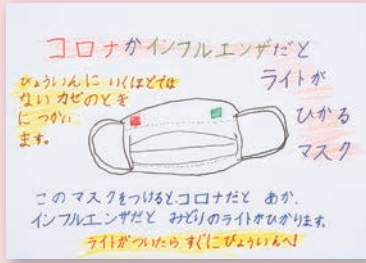
小学生の部・最優秀賞「両側に!自動改札機」は、読み取り機能が両側にあると利便性が気づかせてくれ、左利きの人

小学生の部

優秀賞 [2作品]

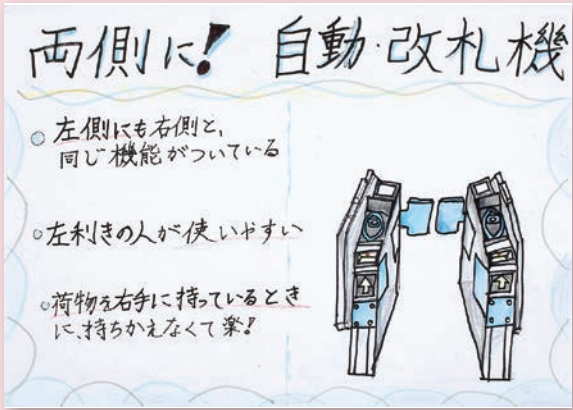


「ラクラク車イス」  
恵庭市立島松小学校6年  
舘山莉子さん



「コロナかインフルエンザだとライトがひかるマスク」  
札幌市立小野幌小学校1年  
大溝 光さん

最優秀賞



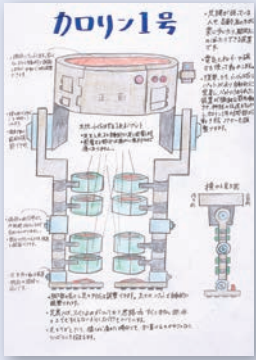
「両側に!自動改札機」  
札幌市立伏古北小学校5年 田中杏実さん

中学生の部

優秀賞 [2作品]

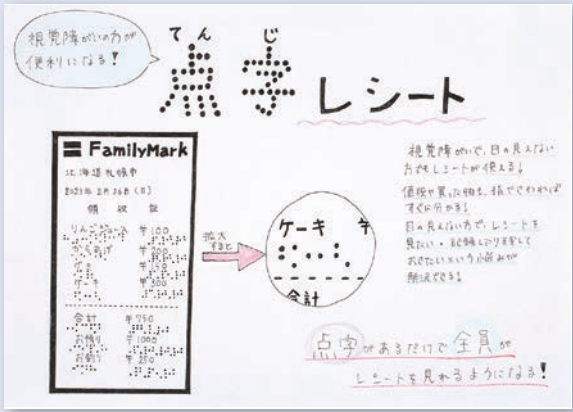


「下を見ててもわかる信号機」  
釧路町立富原中学校3年  
菊地莉奈さん



「カロリン1号」  
釧路町立富原中学校3年  
菊地絢翔さん

最優秀賞



「点字レシート」  
釧路町立富原中学校3年 小田島瑠花さん





本コンテスト入賞作品は、例年、さっぽろ地下街で展示公開しています。(今回は1月6・7・8日、オーロラコーナーに展示)

**審査委員** (敬称略・順不同)  
 伊藤千織 デザイン事務所 代表 伊藤 千織  
 環工房 代表取締役 牧野 准子  
 北海道社会福祉協議会 副局長 小原 規史  
 札幌市社会福祉協議会 常務理事 菱谷 雅之  
 北海道新聞社 くらし報道部 部次長 安宅 秀之  
 ノーマライゼーション住宅財団 前事務局長 堀越 良平

はもちろん、決済機能を備えたスマートフォンを左手に着ける人にも喜ばれることでしょう。中学生の部・最優秀賞「点字レシート」は、視覚障がいのある人も、購入品の価格や品名が確認できるように点字付きレシートも必要と考えた作品で、思いやりがあふれています。日常生活にあつたらいいと思わせてくれる、優しい気持ちが表示された727作品に出会え、大変うれしく思います。応募してくださった皆さん、ありがとうございました。

■佳作 [4作品]

●江別市立江別第一小学校4年 バ 愛星、安田共那 ●札幌市立ひばりが丘小学校4年 坪山友香 ●恵庭市立島松小学校6年 若原大和

■特別賞 [2作品]

●札幌市立稲穂小学校5年 佐々木咲綾 ●恵庭市立島松小学校6年 田中香帆

■奨励賞 [15作品]

●旭川市立永山小学校2年 近藤龍心 ●小樽市立望洋台小学校3年 金住航希、小松海琳 ●札幌市立小野幌小学校3年 大溝 航 ●江別市立江別第一小学校4年 加藤志歩、山田果瑛 ●札幌市立ひばりが丘小学校4年 金谷咲野子、小林菜生 ●札幌市立稲穂小学校5年 内室 堇、田中ももか ●札幌市立伏古北小学校5年 伊藤泉水、植平結衣 ●伊達市立伊達西小学校5年 亀谷湖雪 ●札幌市立あいの里東小学校6年 伏見寧織、星野 鼓

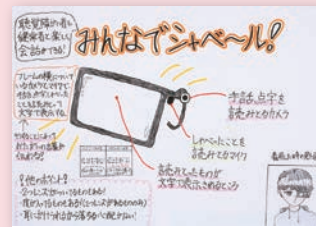
(敬称略・順不同)

優良賞 [3作品]



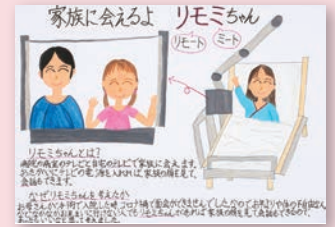
「踏切事故防止カメラ」

恵庭市立島松小学校6年 丸田朔馬さん



「みんなでシャベール!」

恵庭市立島松小学校6年 志村優奈さん



「家族に会えるよ リモミちゃん」

札幌市立幌北小学校4年 甲斐杏那さん

■佳作 [6作品]

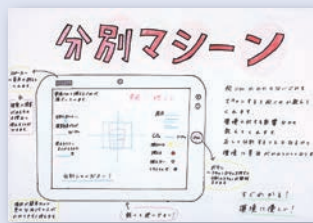
●旭川市立東陽中学校2年 坂本のか ●岩内町立岩内第二中学校2年 佐竹穂乃花、三浦青葉 ●釧路町立富原中学校3年 望月穂香 ●洞爺湖町立虻田中学校3年 杉村愛莉、田所来望

■奨励賞 [15作品]

●旭川市立愛宕中学校1年 星見那奈 ●旭川市立愛宕中学校2年 中村 楓 ●旭川市立旭川中学校2年 白崎勇人 ●旭川市立東陽中学校2年 中川原璃愛、畠山空也、森定 遼 ●岩内町立岩内第一中学校2年 吉岡拓郎、久末杏実 ●岩内町立岩内第二中学校2年 梅村真央 ●北広島市立広葉中学校2年 児玉晃太郎 ●釧路町立富原中学校3年 板谷 奏 ●名寄市立名寄東中学校3年 加藤優直、境 由依、武井子音、山本希実

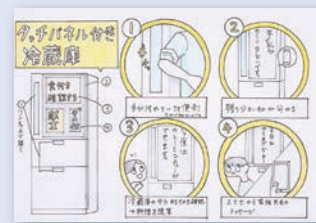
(敬称略・順不同)

優良賞 [3作品]



「分別マシーン」

名寄市立名寄東中学校3年 林 花帆さん



「タッチパネル付き冷蔵庫」

洞爺湖町立虻田中学校3年 矢田にこさん



「消費期限丸わかりタッパー」

洞爺湖町立虻田中学校3年 四戸詩女さん

# グループホームで暮らし 趣味のヒップホップダンスで自信を培う

障がいのある人のグループホームで暮らす只木麻理奈さんの趣味はヒップホップダンス。知的障がいのある麻理奈さんをサポートしてきた母・篤子さんに、麻理奈さんの暮らしぶりを伺いました。

文／大藤紀美枝

## 仲間と一緒に楽しむ チャレンジする

札幌市中央区にあるグループホームで暮らす只木麻理奈さん（32）は、生活介護事業所で仕事（主に軽作業）をする一方、ヒップホップダンスチーム「ミラクル☆ピース」の仲間と週1回のペースでレッスンを受け、発表会などでパワフルなパフォーマンスを披露しています。



写真提供：只木篤子さん（左）と麻理奈さん（右）  
只木篤子さん（左）と麻理奈さん（右）  
写真提供：只木篤子さん（右下の写真も）

「娘はヒップホップの音楽やファッションがお気に入りですが、大好きな仲間と踊ることが何より楽しいようです」と母・篤子さん（70歳）は、言葉を弾ませます。

麻理奈さんに知的障がいがあると診断されて以来、ご両親は麻理奈さんが将来自立できるように、集団生活をとおして学び、人と交流する機会づくりに努めてきました。

高等養護学校での寄宿舎生活もその一つ。麻理奈さんは卒業後、実家から札幌市内の生活介護事業所に通い、20歳の頃、みずから希望してグループホームに入所し、現在に至っています。

## グランプリを受賞し 大きな励みに

麻理奈さんが通うダンス教

室には、小学校からの同級生でグループホームに入所し就業継続支援B型事業所に通うWさんもいます。それぞれの事業所からダンス教室の会場まで徒歩圏ですが、18時30分から約1時間レッスンをすると、外は真つ暗。そこで、札幌微助人倶楽部（通称…びすけつと）の移送サービスを利用しています。

「びすけつとさんに車での送迎をお願いして11年。ドライバースさんたちは知的障がいのある麻理奈やW君に温かい心で接してくださり、親身になってサポートしてくださるので、安心してお願いしています」と篤子さん。

熱心にレッスンを重ねたかあつて、麻理奈さんらが参加する「ハッピーフレンズ with ミラクル☆ピース」は、「北海道知的障がい者芸術祭みんなあーと2023」のステージ部門でグランプリに輝きました。

「やったね！と私が叫ぶと、

『今回は取れるような気がした』と娘は冷静でした。グランプリ受賞が大きな励みになったようで、2024年に向けレッスンを励むというようなことを言っていました」と話す篤子さんもうれしそう。

## 娘を支え 娘を支えられ

麻理奈さんと一緒に暮らしたい気持ちを抑え、自立を優先して見守り続けてきた篤子さんですが、「支えられているのは、娘ではなく私の方」と



2022年秋、仲間とヒップホップダンスを披露する麻理奈さん（左）

写真提供：内川准一さん

麻理奈さんは、ダンスなどで体を動かしながらも徐々に体重が増え、一年半ほど前に糖尿病とわかってからは、グループホームや生活介護事業所のスタッフの協力も得て、食事内容に留意し、今ではかなりスマートに。麻理奈さんは、あるときは誰かに支えられ、また、あるときは誰かを支え、再びグランプリ受賞をという目標を持ってはつらつと暮らしています。



食事管理をしてスマートになった麻理奈さん

言います。

そして、「娘のことですらいることがあると、つい涙が流れます。すると、『お母さん、私は大丈夫だから泣かないで』と励ましてくれます。障がいのあるお子さんを持つお母さんたちをはじめ、いろんな人となりができたのも娘のおかげ。大事な友達は、娘からのプレゼントだと思っています」とも。



# 公益財団法人「ノーマライゼーション住宅財団」 の活動をご紹介します

小誌『WITH LIFE』を発行している当財団は1989年設立、公益に資する法人として、「ノーマライゼーションの理念に基づき、高齢者や障がい者にとっても安全で安心して快適に暮らせる住生活の整備・向上を通して、すべての人が生きがいをもって生活できる社会づくりと、社会福祉の増進に寄与する」ことを[目的]に、主なものとして下記の[事業]を行っています。

- 当財団では、活動理念・趣旨にご賛同いただける方へ、「賛助会員」の入会をお願いしております。
- 当財団へのお問い合わせは、本号2頁記載の連絡先へお願いいたします。
- 当財団の詳細につきましては、ホームページ (<http://www.normalize.or.jp/>) をご覧ください。

## 1 広報誌『WITH LIFE』 「共に生きる」発行

「生涯、快適に暮らしたい」をテーマに、ノーマライゼーションの理念と実践を紹介する当財団の広報誌です。ノーマライゼーションを実践されている方々による具体策、また、関連事例、関連情報源、福祉住宅の実例などの役立つ情報を紹介しています。

■本号通巻59号。バックナンバーを無料提供いたします。



## 2 助成金により福祉住宅の 建築を支援

高齢者や障がい者にとっても安全で快適に暮らせる住宅、また将来身体機能が低下しても安心して生活できる住宅として新築したりリフォームした建築主、およびグループホームや高齢者向けアパートなどの福祉小規模集合住宅の建築主から応募を受け、審査のうえ今後の参考に資する施工物件に対し

て助成金を給付し、また特に優れた物件については設計施工業者さんを表彰させていただきます。

- 本年度の募集要項(概要)は左記の通りです。詳しくは当財団までお問い合わせください。
- 募集期間 5月1日～11月30日
- 応募方法 当財団ホームページから所定申請書をダウンロードして必要事項記入・提出
- 助成金 総額300万円の範囲内(最高30万円まで)

## 3 福祉住宅建築助成 実例集『ふれあい』発行

前項の助成対象物件の中から、さらに選考された事例を、写真や図面つきで紹介しています。専門家のアドバイスや、工夫した点、実際暮らしてみた感想なども綴られています。福祉住宅として新築・リフォームを考えている方などにお役立ていただいています。

■通巻33号。2023年11月「特別編」信頼の置ける事業者選びのポイントと契約までにやっておくべきこと」発行。バックナンバーを無料提供いたします。



## 4 小中学生による 「安全・快適アイディア」コンテスト

お年よりや障がいのある人が安心して快適に生活するための身近な道具・用具、また安全に外出を楽しめる環境づくりなど、様々な「安全・快適アイディア」を小中学生から絵と文字で提案してもらいます。

- 昨年度(第28回)入賞作品は本号16頁に掲載してあります。
- 本年度の募集要項(概要)は左記の通りです。詳しくは当財団までお問い合わせください。
- 募集期間 6月1日～10月31日
- 応募規格 画用紙(八つ切り)
- 応募方法 当財団ホームページから所定の応募票をダウンロードして必要事項を記入し、作品の裏面に添付

## 5 福祉事情に関する情報収集 及び提供

国内外各地の福祉施設や福祉事情などを視察した「報告集」を発行しています。

■詳細は当財団へお問い合わせください。





生涯、快適に暮らしたい。